

令和7年度 道徳教育研究協議会

「道徳教育の推進について」

群馬県教育委員会事務局
義務教育課人権・キャリア教育推進係

道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

道徳科の指導を計画的に推進し、また、それぞれの授業を魅力的なものとして効果を上げるためには、校長の方針のもとに学校の全教師が協力しながら取組を進めていくことが大切である。校長の方針を明確にし、道徳教育推進教師を中心に指導体制の充実を図るとともに、道徳科の授業への校長や教頭などの参加、他の教師との協力的指導、保護者や地域の人々の参加や協力などが得られるように工夫する。

令和7年度 学校教育の指針



新・群馬県総合計画 (2021年～2040年)

- ・ 群馬の20年後の目指す姿を描く「ビジョン」
- ・ 今後、重点的に取り組む具体的な施策を体系化した「基本計画」

群馬県教育ビジョン (第4期群馬県教育振興基本計画) (2024年度～2028年度)

最上位目標：自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う
共生社会へ向けて

—ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける「自律した学習者」の育成—



自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す!

- 本指針は、上記計画等に基づき、群馬県教育委員会が目指す令和7年度の学校・園教育の重点項目を示したものです。市町村教育委員会、学校、園において、教育計画づくりや日々の教育実践を行う際に御活用ください。
 - 「[校長の資質向上のための指標](#)」及び「[教員育成指標](#)」を基に作成しています。
 - 「[群馬県教育ビジョンの実現に向けた取組](#)」のページを新設し、第4期群馬県教育振興基本計画に基づく群馬県教育委員会各課の取組をまとめました。
 - [赤下線部](#)をクリックすると、関連する資料のページにつながります。
- ※端末やドライブに、このファイルデータを保存して御活用ください。

令和7年度 学校教育の指針

【道徳教育の目標】

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の(人間としての)生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。

【道徳教育と道徳科】

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳(以下「道徳科」という。)を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、(外国語活動、)総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒(児童)の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと。

＜全教育活動を通じた特色ある道徳教育の推進＞

育てたい児童生徒像を踏まえた重点目標、重点内容項目を設定し、計画的・発展的に道徳教育を推進しましょう。

道徳教育の全体計画及び別葉の活用・見直し

- 各教育活動等との関連を明確にした諸計画の作成
- 全教職員による共通理解の下、組織的で一貫した道徳教育の推進

「特別の教科 道徳」の充実

- 全教育活動を通じた道徳教育との関連を図った「考え、議論する道徳」への授業改善 ※[「道徳教育パンフレット」](#)参照
- 道徳教育の要としての補充・深化・統合の役割を確認

道徳教育の全体計画及び別葉の活用・見直し

＜全教育活動を通じた特色ある道徳教育の推進＞

育てたい児童生徒像を踏まえた重点目標、重点内容項目を設定し、計画的・発展的に道徳教育を推進しましょう。

道徳教育の全体計画及び別葉の活用・見直し

- 各教育活動等との関連を明確にした諸計画の作成
- 全教職員による共通理解の下、組織的で一貫した道徳教育の推進

学校の教育目標



道徳教育で目指す
児童生徒像は何か

道徳教育の重点目標



関連の深い
内容項目は何か

重点内容項目

特色ある道徳教育

教師間の
共通理解

評価
見直し

道徳教育の全体計画及び別葉の活用・見直し

【例】

学校の教育目標

心明るく

道徳教育の重点目標

笑顔であいさつができ、約束や
きまりが守れる子

重点内容項目

B 礼儀 C 規則の尊重

- ・1年間で複数回扱えるように教材の設定
- ・道徳科で学習する時期、年計の配列の工夫
- ・関わりのある各教科の内容、行事の洗い出し 等

年間指導計画

別葉

道徳教育の全体計画及び別葉の活用・見直し

【全体計画別葉の例】

笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子

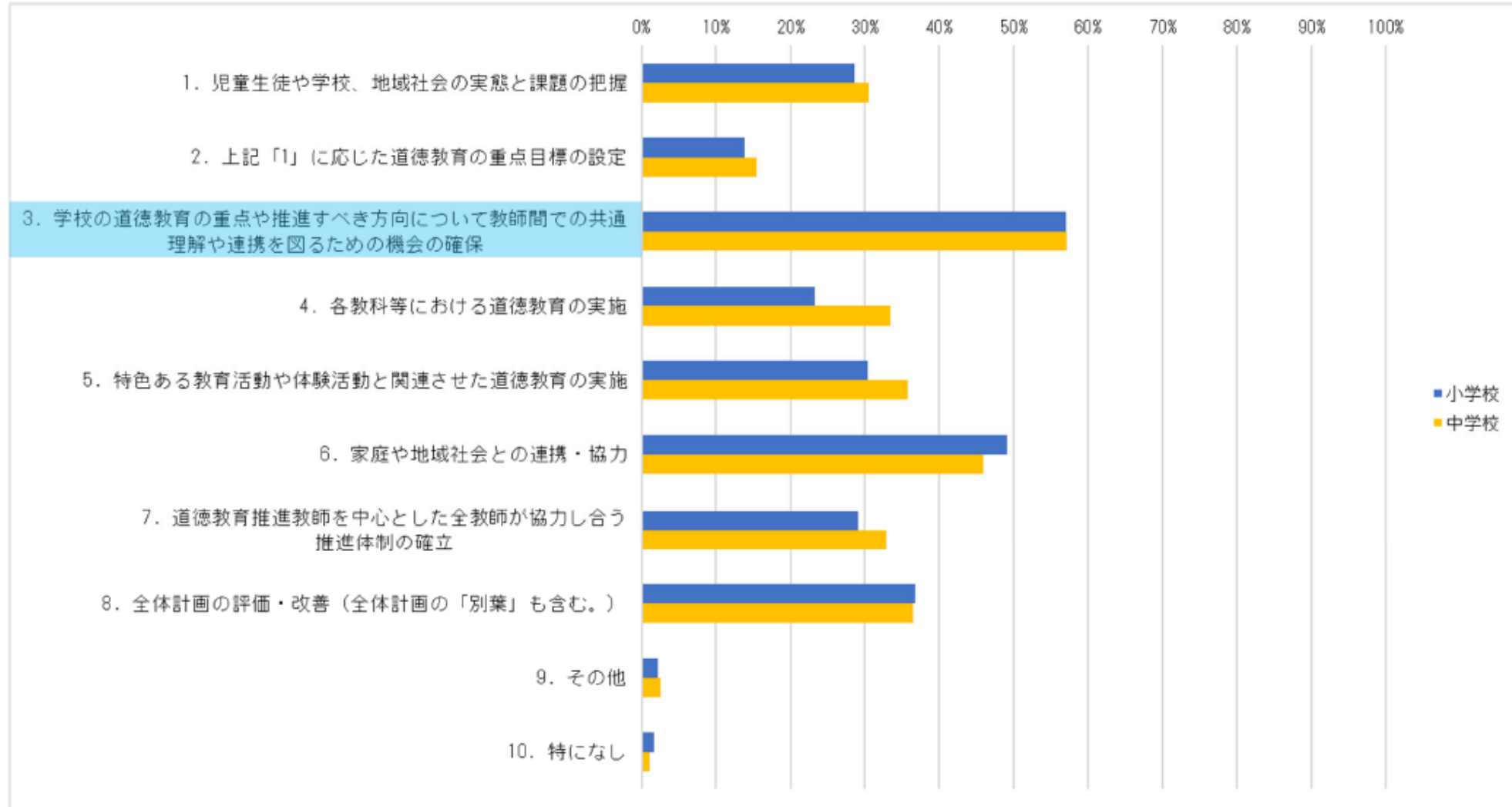
重点内容項目（B 礼儀 C 規則の尊重）

内容項目	国語	算数	理科	学校行事	...
...					
礼儀	お願いやお礼の手紙を書こう			入学式 卒業式	
...			...		
規則の尊重	図書館へ行こう	折れ線グラフと数角の大きさ		運動会 校外学習	
...					
生命の尊さ	一つの花		生き物のくらし	人権集会 いじめ防止会議	

道徳教育の全体計画及び別葉の活用・見直し

調査結果（小・中学校） 令和3年度 道徳教育実施状況調査結果より（諸計画の作成・活用）

【設問3】 道徳教育を推進する上での課題（複数回答可）

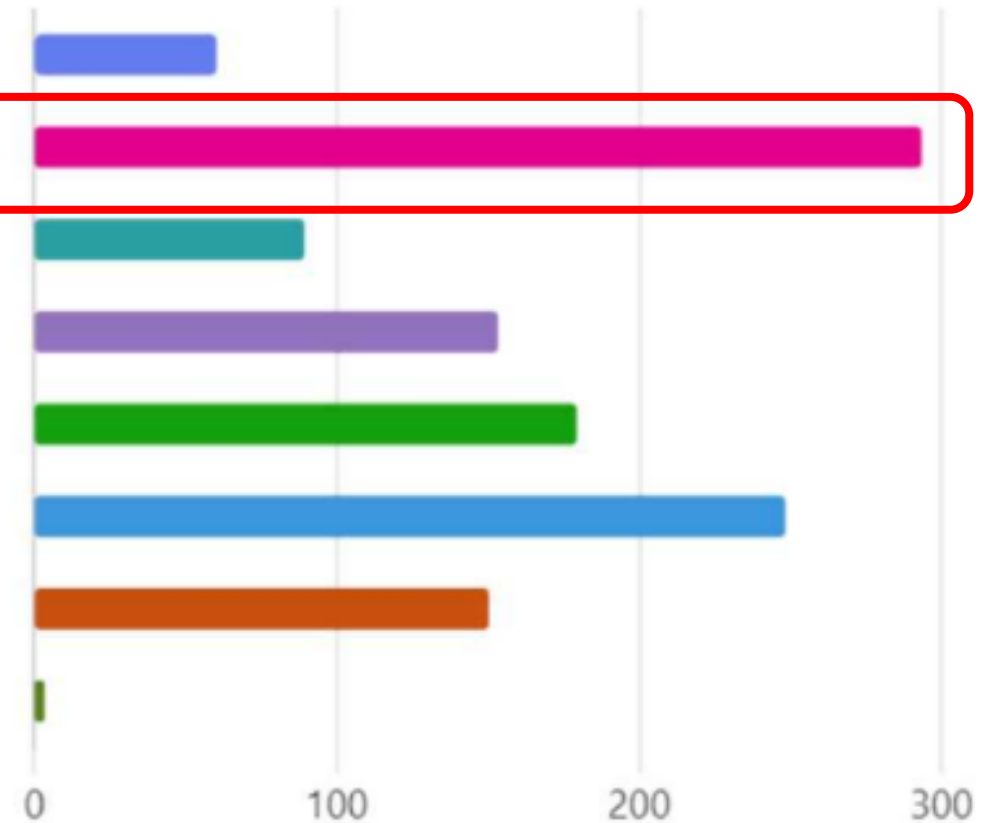


道徳教育の全体計画及び別葉の活用・見直し

7. 道徳教育を推進する上での課題は何ですか。（複数回答可 3つまで選んでください）

令和6年度道徳教育研究協議会 参加者事後アンケート結果より

● 道徳教育の重点目標の設定	60
● 学校の道徳教育の重点や推進の方向性について、 教師間での共通理解や連携を図るための機会の確保	293
● 各教科等における道徳教育の実施	89
● 家庭や地域社会との連携・協力	153
● 道徳教育推進教師を中心とした全教師が協力し合 う指導体制の確立	179
● 「特別の教科 道徳」の授業改善	248
● 道徳教育の諸計画（別葉含む）の評価・改善	150
● 特になし	3



「特別の教科 道徳」の充実

＜全教育活動を通じた特色ある道徳教育の推進＞

育てたい児童生徒像を踏まえた重点目標、重点内容項目を設定し、計画的・発展的に道徳教育を推進しましょう。

「特別の教科 道徳」の充実

□道徳教育の要としての補充・深化・統合の役割を確認

補充

児童生徒は学校の諸活動の中で多様な道徳的価値について感じたり考えたりするが、
その全てについて考える機会があるとは限らない

▶ 各教科等で行う道徳教育としては取り扱うことが十分でない内容項目に関わる指導を補う

深化

各教科で道徳性を養うための学習を行うが、その中では道徳的価値の意味などについて
必ずしもじっくりと考え、深める事ができているとは限らない

▶ 児童生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深める

統合

多様な体験をしても、それぞれがもつ道徳的価値の相互の関連や、自己との関わり
においての全体的なつながりについて考えないまま過ごしてしまう

▶ 内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりする

「特別の教科 道徳」の充実

道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

「特別の教科 道徳」の充実

□全教育活動を通じた道徳教育との関連を図った「考え、議論する道徳」への授業改善 ※[「道徳教育パンフレット」](#)参照

「特別の教科 道徳」の充実

エージェンシーを発揮した子供の姿と授業づくりのポイント

各教科等で特に現れてほしい子供の姿

特別の教科 道徳

○道徳的価値を自分との関わりで捉え、広い視野から多面的・多角的に考え、よりよい生き方への思いや願いを深めている

各教科等の授業づくりのポイント

- ・ 指導の意図を明確にし、多様な考えを引き出す中心発問と考えを深める補助発問を精選する。
- ・ 多様な感じ方や考え方の交流を通して得られた納得解を基に、自己を見つめ直す振り返りを行う。

エージェンシーを発揮した子供の姿と授業づくりのポイント

各教科等の授業づくりのポイント

指導の意図を明確にし、多様な考えを引き出す
中心発問と考えを深める補助発問を精選する。

「特別の教科 道徳」の充実

例えば、「A 善悪の判断、自律、自由と責任」において



価値観

自ら正しいと信じる場所に従って、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする意欲を高めたい。

本時で扱う内容項目について、授業者が特に大切にしたいことは何かを明らかにする。

児童生徒観

児童生徒の実態

よさ

善悪の判断と、よいと思うことを進んで行うことの大切さは理解してきている。

課題

周りの友達に左右され、よいと思うことを進んで行えないところがある。

実態から求められること

人に左右されずに、よいと思うことを進んで行おうとする意欲を高めたい。

授業者の価値観に関連するこれまでの実態と、実態から求められることなどを明らかにする。
「児童生徒のゴールの姿」

考えさせたいこと

よいと思うことを進んで行うことのよさや難しさ



「特別の教科 道徳」の充実

考えさせたいことに基づき、教材をどのように活用するか構想する。



考えさせたいこと

よいと思うことを進んで行うことよさや難しさ

教材観

教材「ぼく、よびに
いってくる」

よいと思うことを進んで行うことよさを自分との関わりで考えさせるために、ぼんすけの行動の理由について考えさせたい。

【あらすじ】

主人公のぼんすけたちがサッカーをしているところへぼんたがやってくるが、数が半端になってしまうため、ぼんきちにかくれるよう指示される。ぼんたは気付かずに去ってしまうが、ぼんすけはぼんたのことが気になる。ぼんすけはぼんきちににらまれながらも、思い切って「ぼく、よびにいってくる。」と言って走り出す。

よいと思うことを進んで行うことよさを感じたときの気持ちを想像させたい

中心発問

ぼんすけは、どんなことを考えて、「ぼく、よびにいってくる。」と言って走り出したのでしょうか。

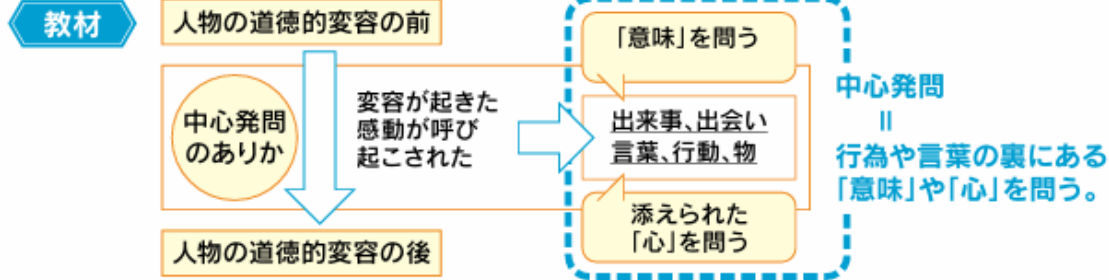


「特別の教科 道徳」の充実

中心発問と補助発問の精選

中心発問

- 本時のねらいに迫るために多様な考えを引き出す。
- 中心発問は教材の仕掛けを生かし、次のように考える。



例

- ◆「～～のとき、〇〇はどんな気持ちだったのだろう。」
- ◆「Aとの出会いは彼に何を気付かせたのだろう。」
- ◆「なぜ、〇〇は涙を流したのだろう。」
- ◆「自分が□□の立場だったらどうだろう。」

子どもたちの発言から
たくさん考えを共有できるけれど、どうすれば
考えが深まるのかな？

改訂版「はじめよう！道徳科」5ページより

補助発問

- 児童生徒の本音を引き出し、考えを深める。

例

- ◆ 考えの理由や根拠を明らかにする
「何でそう考えたの？」「それは、どういうことかな？」
- ◆ 考えをゆさぶる
「みんなはそう言うけど、本当にいいのかな？」
「この考え方で、こんな行動できるのかな？」「難しくないのかな？」
- ◆ 別の視点から考える
「〇〇のような場合は、どんな気持ち？」
「反対の立場から考えるとどうなるのかな？」
- ◆ 複数の考えを比較して考える
「AとBで共通すること(考え方)はどんなことかな？」
「AとBでどちらの気持ちが強いのかな？」

法やきまりを守ることが大切なのはなぜだろう。

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(20分) 【★共有】

中心発問

◎「はればれとした顔で職場を去る元さんは、どのようなことを考えていたのでしょうか。」

S: 来園者の安全を守るために規則があるという意識が低かった。姉弟や園に何事もなくよかった。

S: 姉弟を危険な目に遭わせたかもしれない。園にも迷惑をかけた。けじめをつけよう。

S: いずれにしても、規則を守ることの大切さに改めて気付くことができてよかった。

補助発問

◇「姉弟や母親に感謝されているのだから、自分から辞める必要はなかったのではないのでしょうか。」

S: これを教訓にして、仕事を続けることもできるな。

S: 停職処分では自分の中で納得できず、規則を破ったことをもっと重く受け止めているのかな。

S: なるほど、自分が辞めることで、規則を大切にす、より安全な園になると思っていたのかな。

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめ

○元さんの葛藤する気持ちを考えられるように、自分が元さんの立場だったらどうするか(入れる・入れない)を一覧表示し、その理由を問いかける。

【★一覧表示】

基本発問

○規則に対する多様な考え方を知り、自己の考えを広げられるように、グループで各自の考えの共通点や相違点を基に話し合うよう促す。

○元さんの思いから規則の意義について多面的・多角的な見方や考え方ができるように、生徒の考えを「規則の大切さ」、「姉弟や母親、動物園で働く人達への思い」、「元さんの立場」等、視点ごとに整理して板書する。

○「後悔している」としては、価値を深めることをよ

生徒の考えに
ゆさぶりをかける

○法やきまりの意義や守ることの大切さについて深められるように、法やきまりがあることで何が守られているのかを問いかける。

働くことの意義は何なのだろう。

2 教科書の教材文の範読を聞く。(5分)

教材を通して、道徳的価値についての考えをも
交流する。(2.0分)【★共同編集】

◎「将来あなたが、社会の一員として働くとき、大切にしたい思いはどんなことですか。」

S：様々な要望に応じて、きちんと仕事をすることでお金を得ること。

S：人や生活のため、役に立つことを見つけて、それを継続していくこと。

◇「職場体験で関わった人たちは、どんな思いで仕事に取り組んでいたのだろう。」

S：収入を得ることだけでなく、利用する人たちのことを考えていたな。

S：利用する人たちの視点に立って仕事をしていた。

○教材の理解を深めながら範読を聞くことができるように、災害時の避難所の様子や写真を提示し、教材の概要を事前に伝え、状況や立場などしながら範読を聞くよう促す。【★提示】

○働くことの意義について、様々な視点から考えることができるように、自分が会社員としての立場だったらどうするか（無償で設計図を公開することに賛成か・反対か、またそう考えた理由）を問

いかける。
○自分の考えをより確かなものにするように、思考ツールを活用し、導入時の3つの視点（経済性・個人性・社会性）に着目するように促す。

○生徒同士の意見交流を行う際には、他者の考えを参考にし、自分の意見との共通点・相違点について

【★提示・配布】

基本発問

中心発問

補助発問

別の視点から考える

「特別の教科 道徳」の充実

中心発問で多様な考えを引き出す



補助発問で
考えを深める

問い返し
(理由や根拠)

複数の考えを
比較

ゆさぶり

新たな
視点

経験を
想起

発問の引き出しを多く準備する

「特別の教科 道徳」の充実

エージェンシーを発揮した子供の姿と授業づくりのポイント

各教科等の授業づくりのポイント

多様な感じ方や考え方の交流を通して得られた
納得解を基に、自己を見つめ直す振り返りを行
う。

「特別の教科 道徳」の充実

多様な感じ方や考え方の交流

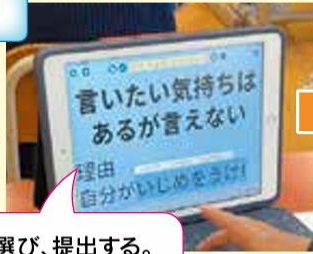
ICTを活用して多様な考えに触れる

③教材を通して道徳的価値についての考えをもち、交流する。

あなたが主人公だったら「ちがう」と言える？

言いたいけど言えないな。
みんなはどうなのかな。

立場によって色分けしたテキストを選び、提出する。



全員の考えを比較・共有し、
多様な考えに触れる。

全体やグループで話し合う。



何もできなかった
自分はずかしい。

みんなの前で発言して
友達を助けよう。

- ・グループでの話し合いを、子どもたちの意見共有から、議論へ発展させる。
(理由を述べる、質問する、違いを考える、共通点を考える・・・)
- ・全体での話し合いは、教師がファシリテーターとなり、問い返したり、児童生徒同士の意見をつないだりする。
(どうしてそう考えるの？ ◇◇という考えもあるみたいだけどどう思う？ ○○さんの意見についてどう思う?)

もう一度めあてについて考え、納得解をもつ。

「特別の教科 道徳」の充実

1 授業づくりについて

道徳科では、明確な指導観を持って授業を構想することが大切です。「はじめよう！道徳科②授業づくりの流れ」参照。
http://www.nc.gunma-boe.gns.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=1374

【指導のポイント】

【問題意識をもつ】

○道徳的価値と自分の経験のずれ、教材の主人公の行為と自分の考えのずれなどを把握させる。

【めあての設定】

○資料を読み考える必要性が増すように、内容項目に関わって掘り下げて考えたり、一言では返答できなかったりするものが増える。
 <例>
 ◆本当の友情とはどういうことだろうか？
 ◆親切にすることが大切なのはなぜだろうか？

【中心発問について】

○中心発問に求めること
 本時のねらいに迫るために多様な考えを引き出すこと。
 ○中心発問は教材の仕掛けを生かし、次のように考える。
 <教材>

人物の道徳的変容の前

中心発問のありか

変容が起きた感動が呼び起こされた

「意味」を問う
出来事、出会い、言葉、行動、物

「心」を問う
承えられた「心」を問う

人物の道徳的変容の後

行為や言葉の裏にある「意味」や「心」を問う。

<例>
 ◆「Aとの出会いは彼に何を気付かせたのだろうか。」
 ◆「なぜ、〇〇は涙を流したのだろうか。」

【補助発問について】

○児童生徒の本音を引き出し、考えを深める。
 <例>
 ◆常識や当たり前と考えていることに対しての問い直し
 「本当に？」「それでいいのかな？」
 ◆きれいごとで終わらそうな発言に対してのゆさぶり
 「腑しくない？」「できるかな？」

※展開の3や4においては、多様な考えを比較できる

基本的な流れ

- 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。
 ●本時で扱う道徳的価値に関わる資料（アンケート結果、視聴覚教材等）を提示したり、話題（経験も含む）にしたたりして気付きを共有させる。
 ●児童生徒の問題意識を基に、学習のめあてを設定する。
 【めあて】
- 教科書の教材文の範読を聞く。
 ●教師は、実態に応じて場面絵を提示し読み進める。
- 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。
 ●人間関係を確認したり、状況を把握したりするための基本発問をする。
 ●多面的・多角的に考えることのできる中心発問をする。
 ●中心発問に対する児童生徒の考えに対し補助発問をする。
 ※問題場面を役割演技で再現するなどの体験的な活動を設定することも考えられる。
- 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。
 ●学習のめあてに戻り、改めて気付いたことや考えたことを問いかける。
 ●児童生徒に考えたことを発表するよう促す。
 ●発表された様々な考えを受容する。
- 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。
 ●本時の学習を振り返り、よりよい自己の考えや生き方への思いや願いを深めさせる。
 【振り返り】

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

- 人間関係を確認したり、状況を把握したりするための基本発問をする。
- 多面的・多角的に考えることのできる中心発問をする。
- 中心発問に対する児童生徒の考えに対し補助発問をする。

価値理解
人間理解
他者理解

交流

価値理解
人間理解
他者理解

交流

※問題場面を役割演技で再現するなどの体験的な活動を設定することも考えられる。

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。

- 学習のめあてに戻り、改めて気付いたことや考えたことを問いかける。
- 児童生徒に考えたことを発表するよう促す。
- 発表された様々な考えを受容する。

納得解

自己を見つめ直す振り返り

よりよい自己の生き方への思いや願い

「はばたく群馬の指導プランⅡ」より

「特別の教科 道徳」の充実

なぜあいさつがひつようなのかな。

S : 真面目に言うことも大切だと思うな。

S : 相手の気持ちを考えることが必要だと思うよ。

3 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(5分)

S : 挨拶すると、お互いが気持ちよくなるから。

S : 相手のことを考えた挨拶は、みんなを仲良しにするから。

4 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。(10分)

か。」を問い返す。

○本時の学習をもとに、自分の考えをより確かなものにできるように、なぜ挨拶や相手のことを思いやる言葉や態度が必要なのかを考えるように促す。

○気持ちのよい挨拶や思いやりのある一言を心がけようとする思いを高められるように、これからの生活で生かしていきたいことをワークシートに記述するよう促す。

納得解

振り返り

<振り返り>

S : 今までは、大きな声で挨拶するのがいい挨拶だと思っていたけど、挨拶するときには相手のことを考えることが大切だとわかった。これからは相手のことを考えて挨拶したい。

よりよい自己の生き方への思いや願い

「特別の教科 道徳」の充実

正直に生活するにはどうしたらよいだろうか。

納得解

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(5分)

S : ごまかさず、素直に謝ることが大切だ。
S : 素直に謝ると気持ちいいから、自分のためにも謝るべきだ。

る。
○行動面だけの考えにならないように、理由についても問いかける。

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。(10分)

○よりよい自己の生き方への思いや願いを明確に振り返れるよう、今までの自分、これからの考えや行動について気付いたことを記述するよう促す。

振り返り

<振り返り>
S : 今までは、自分で悪いことをしてしまったときに、ごまかそうとしてしまった。今日改めて、正直に生活するためには、わざとでなくても、いけないことは素直に認めることが大切だと思った。これからは、いけないことをしてしまったら、ごまかさず素直に反省して、正直に生活していきたいと思った。

よりよい自己の生き方への思いや願い

道徳科 資料

改訂版

はじめよう！道徳科



- 道徳科ってどんな教科なの？
- 授業づくりは、どのように行えばいいの？
- 「考え、議論する道徳」ってどんな授業なんだろう？
- 道徳科における評価は、どうするの？

なぜ、教科化されたの？

道徳が教科化された背景には、全国で発生した深刻ないじめ問題などが関係しています。本来、道徳は、いじめの防止に向けた重要な役割を担うものですが、読み物の登場人物の気持ちの読み取りで終わったり、表面的な発言や記述に留まったりするなどの課題が指摘されていました。

いじめ問題が深刻な状況にある今こそ、道徳教育の重要性を改めて認識し、その一層の充実を図るため、平成27年3月に学習指導要領が一部改正され、教科化へと至ったのです。

どのようなことが求められているの？

道徳科の授業では、いじめ問題をはじめとする現実の様々な問題に対応できる資質・能力を育むことが一層求められます。そのためには、例えば、「いじめは許されない」などを教師が一方的に説明するのではなく、「なぜ、いじめをしてはいけないのか？」などについて、児童生徒が自分自身の問題として向き合い、考え、議論するような授業を積極的に行うことが大切です。

令和7年3月
群馬県教育委員会

ふかめよう！道徳科

本資料は、「はじめよう！道徳科」(平成30年3月県教育委員会作成)を踏まえ、文部科学省・県教育委員会の指定校・指定地域における次の3つに係る取組を紹介したものです。

- ①教育活動全体で行う道徳教育
- ②「考え、議論する道徳」の授業
- ③道徳科の評価

道徳教育の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

道徳科の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的価値観についての理解を基に、自己を見つめ、自尊を(中学校・高い視野から)多面的・多角的に考え、自己の生き方(中学校・人間としての生き方)についての考えを深める学習を通して、道徳判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳性とは、道徳科を要として学校教育全体を通して行うものです。

道徳教育と道徳科の目標の統一が図られ、分かりやすくなりました。

群馬県教育委員会 各課発行・編出資料 群馬県 道徳科

平成31年3月
群馬県教育委員会

ふかめよう！道徳科 実践編

本資料は、県教育委員会がこれまでに作成した「はじめよう！道徳科」、「ふかめよう！道徳科」、「はばたく！道徳科の指導プラン」を踏まえ、以下の内容を紹介したものです。

- ・文部科学省・県教育委員会の指定地域における、指導と評価の一体化や大きくくりなまとまりを踏まえた評価についての実践例
- ・道徳教育研究協議会で出された、各学校で行っている評価のための工夫例

道徳教育と道徳科の評価

道徳教育

教育活動全体で見られた児童生徒の道徳的行動を評価

道徳科

児童生徒の学習状況及び道徳性に係る成長の様子を評価

評価の記録

児童生徒の学習状況等を踏まえた評価

各学校の児童生徒の実践に依り、指導と評価を行うことが大切です。

群馬県の公開文書である「指導要領」への対応

令和2年3月 群馬県教育委員会

活用してください

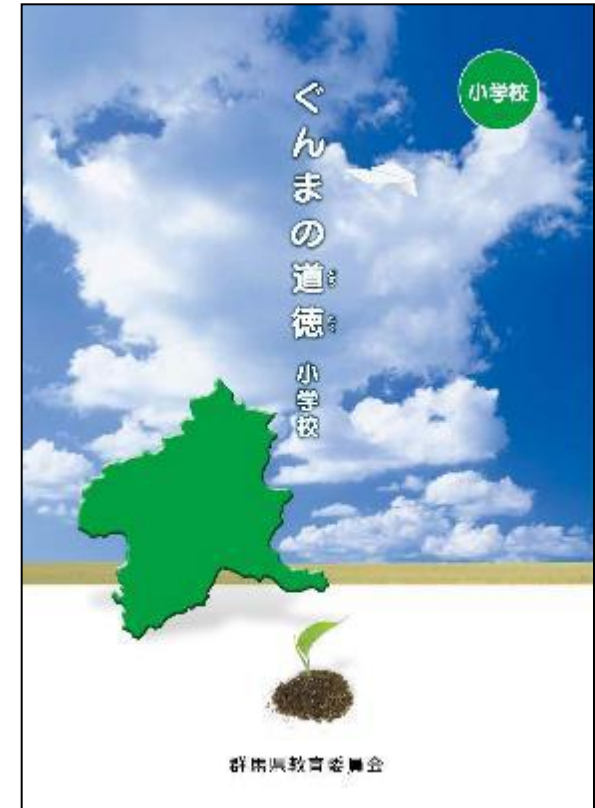
- ・ 「はじめよう！道徳科」 R7改訂
- ・ 「ふかめよう！道徳科」
- ・ 「ふかめよう！道徳科 実践編」

「ぐんまの道徳」の活用

郷土愛や自然愛について
考える授業の充実に向けて

主たる教材...教科書

地域教材など適切に活用できる



～郷土の特色が生かせる教材の使用～

学習指導要領の内容項目（小学校）



小学校

キーワード	作品数
4－(5) 郷土愛	5
1－(2) 勤勉・努力	3
3－(2) 自然愛	2
1－(4) 誠実	1
1－(5) 真理	1

⇒ C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

⇒ A 希望と勇気、努力と強い意志

⇒ D 自然愛護

⇒ A 正直、誠実

⇒ A 真理の探究

学習指導要領の内容項目（中学校）



キーワード	作品数
1－(2) 勤勉・努力	2
4－(8) 郷土愛	1
3－(2) 自然愛	1
1－(4) 真理・理想の実現	1
2－(6) 感謝	1

⇒ A 希望と勇気、克己と強い意志

⇒ C 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度

⇒ D 自然愛護

⇒ A 真理の探究、創造

⇒ B 思いやり、感謝

群馬県教育委員会 各課発行・提供資料

〒371-8570 前橋市大手町1-1-1
群馬県教育委員会事務局 TEL 027-223-1111 (代)

メニュー

トップページ

総務課

管理課

お知らせ

「はばたく群馬の指導プランII」実践事例サイト

※各教科の○をクリックすると事例につながります

※最終更新日 令和7年3月11日

※令和6年度以降の実践事例は、

【道徳・中1・挑戦し続けること】A希望と勇気、克己と強い意志②のページのページを御覧ください。

小4

・中学校1年

<A 主として自分自身に関すること>

・道(中1)「自らの目指す理想の実現に向けて A-(5)真理の探究、創造『新しい日本文学をめざして～田山花袋～』

・道(中1)「最後までやり抜く強い意志をもつ A-(4)希望と勇気、克己と強い意志『伊勢崎銘仙とともに～下城弥一郎～』

○道(中1)「挑戦し続けること」(A希望と勇気、克己と強い意志理)【ICT】

<B 主として人との関わりに関すること>

<C 主として集団や社会との関わりに関すること>

・道(中1)「公正、公平なクラスにするために C-(11)公正、公平、社会正義『席替え』

・道(中1)「『きまり』の意義 C-(10)遵法精神、公德心『人に迷惑をかけなければいいのか?』

○道(中1)「いきいきと輝いて」【ICT】

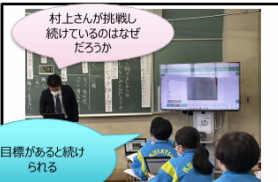
【事例におけるICT活用の場面①】



みなさんならチャレンジ
できますか

教材文を読んだ後の発問「みなさんならチャレンジできますか」について、できるかできないかという考えを、デジタルホワイトボードに、「できる」なら黄色の付箋に、「できない」なら水色の付箋に、迷っているのなら黄緑の付箋に出席番号を書くことで、生徒の考えを整理、可視化することができる。その後、それぞれの理由を発表する。【可視化】【思考の整理】

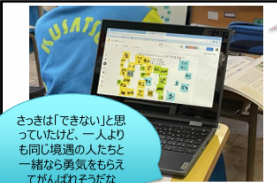
【事例におけるICT活用の場面②】



村上さんが挑戦し
続けているのはなぜ
だろうか

中心発問「村上さんが挑戦し続けているのはなぜだろうか」について、自分自身の考えをワークシートに記入する。記入後、学習支援ソフトに提出して画面共有をする。画面共有で友達の多様な意見に触れ、それを基に、話し合うことで、自分事として考えられるようになり、多面的・多角的な考えをもてるようになる。【共有】

【事例におけるICT活用の場面③】



みなさんならチャレンジ
できますか

話し合いをした後に、再度同じ発問「みなさんならチャレンジできますか」について、考えに変容があったとき、展開時に記入したデジタルホワイトボードの付箋【事例におけるICT活用の場面①】を動かすことで、生徒の考えを整理、可視化することができる。その後、それぞれの理由を発表する。【可視化】【思考の整理】

【活用したソフトや機能】

・アンケート・デジタルホワイトボード・写真・学習支援ソフト

文部科学省では、「特別の教科 道徳」の趣旨や理念の実現を図るため、「考え、議論する道徳」の授業づくりの参考となる映像資料等を提供し、学校の実践を全力で支援します。

